

# Topic46

## 米国イリノイ州の VCP

- 1) こんなところです
- 2) イリノイ州の VCP

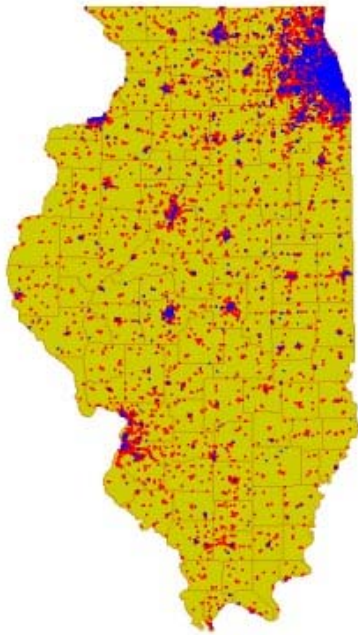
---

お疲れ様です。環境メルマの佐藤です。これまで数回に渡って米国西海岸周辺の州をご紹介してきましたが如何でしたでしょうか。西海岸周辺も東海岸周辺におとらない勢いでブラウンフィールド再開発の取り組みを進めている様子が伺えます。

今週から環境メルマは五大湖周辺へ移動します。五大湖周辺には自動車産業等の工業サイトが存在しており、様々な環境問題を経験している地域です。さてブラウンフィールドはどうでしょうか？今週はイリノイ州にスポットを当ててブラウンフィールド再開発の取り組みをみていきましょう。

### 1) こんなところです

五大湖の1つ、ミシガン湖の南西岸に隣接しているイリノイ州。本州は1818年12月3日、21番目に米国に加入しました。州の総人口は約1270万人（2005年）、人口密度は約90人弱/k㎡。州都はスプリングフィールド、州最大都市はシカゴです。



さて、上の図はイリノイ州環境保護局のHPに記載されているマップです（2003年）

(<http://www.epa.state.il.us/land/database.html>)。青い点は州の自主的浄化プログラムを

終了または登録中のサイト（つまりブラウンフィールド）、赤い点は漏洩地下貯蔵タンク（LUST: Leaking Underground Storage Tank）が存在するサイトです。これを見るとシカゴがどのあたりか推測できますよね。そうです、北東部にある赤と青の点が密集している部分です。このあたりは「シカゴランド」と呼ばれており、市を中心に広がる大都市圏が形成されています。シカゴランド=広域Brownfields?といたくなってしまうくらいです。ちなみにLUSTはイリノイ州全域における幹線道路沿いを中心に点在しているのに対し、ブラウンフィールドは主要都市に集中している傾向が明らかです。同州はプレーリーが広がっており、そこでは大規模な農業が展開されていますが、かなりの数のLUSTが存在しているのですね。

## 2) イリノイ州のVCP

同州の自主浄化プログラムの正式名称は「サイト浄化修復プログラム（SRP: Site Remediation Program）」です。イリノイ州環境保護局 土地課で運営されています。同プログラムへの登録基本条件是、連邦（国）が管轄するスーパーファンドサイトとRCRAサイトとしての登録がなされていないこと。1989年から2004年までの間に同プログラムを終了したサイト数は約2400件。マサチューセッツ州ほどではありませんが、同州の自主浄化プログラムも活用度合いが高いようです。その理由は、プログラム登録者に限り上記の財政インセンティブを利用する権利が与えられること、そしてプログラムのもとでサイト浄化を終了した場合、州は登録者に対象サイトの汚染浄化責任に対して免罪符を発行すること、が挙げられます。

同州のインセンティブは以下のようなものがあります。

- ・ ブラウンフィールドに特化したローン
- ・ 自治体におけるブラウンフィールド再開発助成金
- ・ サイト浄化のためのリボルビングローン
- ・ シカゴ市が実施している銀行参画のローン、等です。

もちろん、これらのプログラムを運営するにはUSEPAからの助成金が大きな援助になっているとは言ってもありません。そしてインセンティブ適用の対象は公有地だけではなく私有地も含まれています。

同州における今後のブラウンフィールド再開発の取り組みによって、最初にご紹介した黄色のマップがどう変化していくのか？楽しみです。

来週は、インディアナ州のVCPをご紹介します。

Thanks God It's Friday!

Thanks God It's Brownfield!!

環境メルマ 佐藤 ([t.sato@ers-co.jp](mailto:t.sato@ers-co.jp))

---

坂野のつけたし ([banno@ers-co.jp](mailto:banno@ers-co.jp))

Nickname -- 「The Prairie State (平原が広がる)」 「Land of Lincoln (リンカーンが政治家としてのキャリアをスタートした)」 「The Corn State (とうもろこし畑が広がる)」 「Egypt (ナイル川デルタのように肥沃な土地)」

事例紹介 -Chicago (シカゴ) : かつて自動車修理工場などがあった土地にFamily Resource Centerができました。このセンターは、地域の子供たちが健全に育つために、家族も対象とした教育を提供したり、相談にのったりする公共性の高い施設です。日本の保育園や幼稚園とは異なり、カウンセリング的な役割が主で、家庭内暴力や存在無視といった問題から子供たちを守るための活動を行なっています。1998年にEPAのファンドなどを使って調査を行ない、浄化計画が立てられました。1990年代半ば、市はこの土地を隣接地も含めて取得し、最終的にはセンターの事業者に1ドルで売却しています。汚染問題の責任については、州がレターを発行して、その責任を限定。その結果、事業者はプライベートのローンを用立てすることができました。約4000㎡の土地に埋まっていた地下タンク2基と3700トンの汚染土壌を撤去するのに約3000万円。この費用も市が払っています。地域に必要な施設をつくり、と同時に環境上の問題にも取り組む。ブラウンフィールド事業のビジョンそのものといった事例です。

([http://egov.cityofchicago.org/webportal/COCWebPortal/COC\\_ATTACH/Brownfields\\_Report\\_Final\\_Low\\_Rez.pdf](http://egov.cityofchicago.org/webportal/COCWebPortal/COC_ATTACH/Brownfields_Report_Final_Low_Rez.pdf) の16、17ページ参照。3MBを超えるpdf資料ですが、写真がたくさん付いています。)